



沖縄キリスト教学院大学
沖縄キリスト教短期大学

学 報

第58号

2012年3月8日発行

沖縄県西原町字翁長777

TEL.(098)-946-4161

FAX.(098)-946-1241

【編集・発行】

沖縄キリスト教学院企画推進課

URL <http://www.ocjc.ac.jp>



記事内容



★理事長・学長メッセージ	2	★宗教部&沖縄キリスト教平和研究所	12
★理事、監事、評議員名簿	2	★国際平和文化交流センター	13
★各学科の取組み		★就職関連	14
英語コミュニケーション学科	3	★図書館	14
大学院	3	★在学生の活躍	15
沖縄キリスト教短期大学・沖縄キリスト教学院大学共催 ..	4	★留学生紹介	15
英語科	4	★新任教職員メッセージ	16~17
保育科	5	★退職教員メッセージ	17
総合教育系	6	★学習支援センター開設	18
★認証評価認定	7	★新学長選任	18
★研究助成費獲得による研究活動	7	★2011年度人事一覧	18
★オープンキャンパス	7	★同窓会情報	19
★行事	8~9	★寄付感謝報告	19
★東日本大震災を受けて	10~11	★2012年度前期公開講座	20
★卒業生の活躍	11	★2010年度決算報告	20



沖繩キリスト教学院大学
理事長・学長
神山 繁實

「共に在ること、生きること、仕えること」

昨年の3月11日の東日本大震災とそれに付随する原発事故は、日本のみならず、世界的規模で大きな悲しみと問題提起を私たちに与えました。この震災と事故は、私たちに沖縄キリスト教学院の建学の精神の捉えなおしを迫っているように思います。沖縄キリスト教学院の「建学の精神」がどのような内容であったのか、もう一度考えてみる機会にもなりました。東日本の悲惨な出来事や原発事故という後世に残してはならない負の遺産をきちんと整理しなくてはならないと思います。それらに関連して、被災者や被災地のことを決して忘れてはならないことです。覚え続け、関わり続けることが必要です。

沖縄キリスト教学院の建学の精神の一つは、「隣人に仕える」こと、必要としている人の「隣人になる」ことでした。本学院には、平和学の講座があり、キリスト教平和研究所が2年前に設立され、戦後を生きてきた証言者の声を聴く企画がなされ、実行されてきました。いずれ一冊の本として出版される予定ですが、実際に生きてきた人々の証言を後世に伝える営みは、重要な意味を持っています。単なる昔話ではなく、出来事の因果関係やその結果を検証しなければならないと思います。大切なことを語り伝える作業をととして歴史を共有する営みが後世に伝えることが可能になるのです。沖縄の歴史において体験された出来事を決して風化させてはならないと思います。その営みの中で真の平和とは何かということを改めて見直し、「平和をつくりだす」営みにつながるのではないのでしょうか。

同時に、現在私たちが直面する諸課題を直視しなければなりません。沖縄の現状は、かつての太平洋戦争とその事後処理に起因しており、現在まで問題を引きずってきたことが、普天間飛行場問題や辺野古移設に関わる諸問題を付け加えることになったと思います。これらの問題を沖縄の視点から捉えなおす必要があります。

隣人として共にあること、生きることは、関わり続け、連帯していくことに他なりません。卒業生および新たに加わる新入生・関係者の上に神の豊かな御導きと祝福があるように祈ります。

学校法人沖縄キリスト教学院 理事、監事、評議員

(任期:2011年10月15日~2014年10月14日)

役職	氏名	選任条項	備考
理事長	神山 繁實		再任
常務理事	仲門 勇市		再任
理事	神山 繁實	1号:学長	学長
	高崎 正名	2号:評議員会	新任:人文学部長
	前里 光信	2号:評議員会	再任:同窓会副会長
	若松 喜久美	2号:評議員会	新任:葵インターナショナル代表取締役社長
	神山 繁實	3号:日本基督教団沖縄教区	再任:理事長、学長
	名嘉 隆一	3号:日本基督教団沖縄教区	再任:愛隣園理事長
	竹花 和成	3号:日本基督教団沖縄教区	再任:沖縄教区総会議長
	大城 実	4号:学識経験者	再任:元理事長、元学長
	國吉 守	4号:学識経験者	再任:後援会長
	仲門 勇市	4号:学識経験者	再任:常務理事
監事	當山 善堂		再任
	金城 満珠男		再任:金城満珠男税理士事務所所長・税理士
評議員	高崎 正名	1号:法人職員	新任:人文学部長
	城間 仙子	1号:法人職員	新任:短期大学部長
	金 永秀	1号:法人職員	新任:四大教授
	内間 清晴	1号:法人職員	再任:短大教授

役職	氏名	選任条項	備考
評議員	渡慶次 智子	1号:法人職員	再任:入試課長
	金城 雄彦	1号:法人職員	新任:キャリア開発課長
	譜久原 朝儀	2号:卒業者	再任:同窓会長
	前里 光信	2号:卒業者	再任:同窓会副会長
	平良 秀子	2号:卒業者	再任:同窓会評議員
	豊見永 清美	2号:卒業者	再任:同窓会評議員
	嶺井 幸雄	2号:卒業者	新任:卒業生
	照屋 守道	3号:学識経験者	再任:ハウス産業株式会社社長
	折田 政博	3号:学識経験者	再任:天久神の教会牧師
	知念 光弘	3号:学識経験者	再任:卒業生
	西村 貞雄	3号:学識経験者	再任:琉球大学名誉教授
	新川 武雄	3号:学識経験者	再任:本学元事務局長
	金城 信一郎	3号:学識経験者	再任:豊見城神の会教会牧師・卒業生
	吉村 恵子	3号:学識経験者	再任:沖縄銀行ローン推進本部本部長代理
	知念 信正	3号:学識経験者	新任:前具志川市役所建設部長
	高安 藤	3号:学識経験者	新任:前在沖米国総領事館広報文化担当補佐官
	金井 創	3号:学識経験者	新任:佐敷教会牧師、沖縄キリスト教平和研究所コーディネータ
	奥 キヨ子	3号:学識経験者	新任:レキオファーマ株式会社代表取締役社長
	若松 喜久美	3号:学識経験者	新任:葵インターナショナル代表取締役社長

(2011年10月15日現在)

英語コミュニケーション学科

(1) 第3回 5大学連携金融講義

本学と沖縄大学、沖縄国際大学、名城大学、琉球大学の5大学が連携して講義を担当する第3回「金融理論と実務の基礎」が10月8日より開催されました。金融についての知識を大学の教員からだけでなく、銀行・証券の実務担当者が実践的な授業を展開するものです。今回の参加者は、各大学からの合計23名で、本学より7名が参加しました。本学からは人文学部の高崎教授が担当しました。



(2) 学P 沖縄リーグ

沖縄ファミリーマート主催の「学P沖縄リーグ2011」のデザート部門に高崎ゼミの学生たち(代表 小橋川利奈)が参加し、ベストパフォーマンス賞を受賞しました。今回提案したのは「かぼちゃっぷりん」という、かぼちゃ・紅イモ・さつまいもを使用したスイーツで総販売売上数と総販売金額では6大学中ともに2位と健闘しました。



商品開発からCM撮影、販売促進活動など1つの商品の誕生から終了までに携わり、普段の学校生活とは一味違った経験をすることができました。学生たちも一皮むけて成長し、今後の就職活動や学校生活においても、今回学んだ多くのことを活かしていくことが期待されます。

(3) 同時通訳集中講座 2011年8月2日(火)～9日(火)

夏期の「同時通訳集中講座」(通算19回)が今年度も開講され、初級・上級クラス合わせて43名が受講しました。長く沖縄近辺に居座った台風9号の影響で8日間のうち3日間が休講になるという予想外の事態に見舞われましたが、受講者の皆様と先生方との協力のもとでオンライン講義や補講を重ねたことにより、予定していたほぼ全ての講座内容を実施することができました。また、長年にわたって法廷通訳者としてご活躍の金城初美先生を特別講演の講師にお迎えし、印象に残る事件や通訳者を目指す人へのメッセージなど、数多くの示唆に富むお話をお聞きました。会場には通訳ブースが設けられており、受講者が交代で講演の同時通訳を行ないました。

学内外から集まった、第一線の現場で活躍中の通訳者を含む担当講師の熱心な指導のもと、受講者は次々と難しい課題に挑み、見る間に上達を遂げてゆきました。受講者の誰もが、通訳の技能だけでなく「達成感」という大きな収穫をも手にしました。

大学院

(1) 2011年度(第4回)

沖縄キリスト教学院大学大学院講演会

2011年度(第4回)沖縄キリスト教学院大学大学院講演会を10月1日(土)、本学で開催しました。今回は、国立シンガポール大学准教授のLionel Wee博士をお迎えしました。Wee先生はシンガポールの言語政策が専門で、「言語と都市：地域の固有性とグローバルな実用性のはざまで」との演題で講演していただきました。小中高等学校教員、学校役員、主婦など、学内外から合計54名の参加者があり、大変好評でした。



(2) 韓国の小学校英語教育視察

本大学院山里恵子特任教授と大学院2年次の金城正子さんが、昨年度の大学院講演者であるWonkey LEE博士(国立ソウル教育大学教授)を訪ね、2011年6月に韓国の小学校の英語教育を視察しました。最新の英語の授業風景をビデオに収めることができたので、帰国後、視察報告会を開催しました。小中高等学校教員や教育委員会の職員の方々などが参加され、質疑応答では活発に意見や質問が繰り広げられました。





沖縄キリスト教短期大学・沖縄キリスト教学院大学共催

第31回 学内英語弁論大会

2011年11月4日(金)

沖縄キリスト教短期大学・沖縄キリスト教学院大学主催による、第31回学内英語弁論大会が開催されました。大会は、学内の学生を対象に、英語によって日頃の学習や経験を通しての意見を述べるという内容です。今年は、8名の学生が参加し、その中から選ばれた入賞者は以下の通りです。入賞者の皆様、おめでとうございます!

【1位】	佐野 祥子 (英語コミュニケーション学科 4年)	Finding something to give you confidence
【2位】	比嘉 周作 (英語コミュニケーション学科 3年)	How do you want to be treated?
【3位】	砂川 真紀 (英語コミュニケーション学科 3年)	Capital Punishment Should be Banned



英語科

大学入学の準備はブリッジプログラムで

英語科ではこの度、入学前学習支援を「ブリッジプログラム」と改名し、より具体的な学習支援を提供することを目的に、その名のとおりに高校から大学への「橋渡し」のプログラムとして位置づけています。

このブリッジプログラムは、3つの要素を目的として構成されています。①大学生、つまり「キリ短英語科の学生」になるという自意識の気づきと帰属意識の向上、②4月入学後から始まる大学講義に備えるためのノウハウの学習、そして③本学院の成り立ちに関する学習があります。今回のブリッジプログラムは、特に目的の①と②を強化しました。ここでは実際、このブリッジプログラムでは、どのような学習支援を行ったのかを、紹介したいと思います。

第1回目のブリッジプログラムは、昨年10月29日にAO入試合格者を対象に開催しました。学長挨拶から始まり、教員紹介、Ice-Breaking Activityでお互いの紹介をした後、『大学生、「キリ短英語科の学生」になるということ』という演題で、在学生と卒業生の諸先輩に語ってもらいました。また、帰属意識を高めてもらうため、先輩方によるキリ短キャンパスツアーを「英語」で行ってもらいました。また、本学院の成り立ちに関する学習を最後に行い、第1回目のプログラムを終了しました。

第2回目は、昨年12月17日にAO入試合格者と推薦入試合格者を対象に行いました。第2回目は、大学講義に備えるための必要なスキルの学習に重点を置きました。まず、総合教育系の上原明子先生によるノートテイキング講座で、ノートテイキングの必要性とその演習を体験してもらいました。とても有意義な演習だったのではないのでしょうか? ノートテイキング講座後も、ほとんどの学生がそのスキルを駆使して、メモをする姿が見られました。続いて、先輩による講話「大学で学ぶとは」があり、そして、LL室を利用したシャドーイングの練習も体験してもらいました。ちなみに、シャドーイングとは、プロの通訳者でも取り入れている英語リスニングのトレーニング法を言います。更に、本短期大学英語科は、より多くの通訳者を養成するため、通訳に特化した授業を多く揃えていることも紹介し、第2回目のプログラムを終了しました。

次回、第3回目のプログラムでは、プレースメントテストを予定していることから、その学習支援として、キリ短英語科の一般入試過去問題を勉強課題として配布しました。以上のように、ブリッジプログラムを通して、これから大学生になる高校生の皆さんをバックアップし、安心して入学し、学習に励んでもらうことを目的に行っております。





保育科

保育科主要日録 (2011年2月～2012年1月)

2011. 2. 1(火) 川西康裕教授に全国保育士養成協議会会員校教職員表彰
2011. 2. 8(火) チャペルにて音楽Ⅲ受講生ミニコンサート 出演者 学生15名 教員 5名
2011. 2.10(木)～ 3.23(水)..... 施設実習Ⅰ(80時間)(35施設、1年次106名 2年次1名)
2011. 2.14(月)～ 2.25(金)..... 施設実習Ⅱ(80時間)(1施設、2年次1名)
2011. 3. 1(火)～ 3.25(金)..... 普通救命救急講習(4回実施1年次 111名)
2011. 3.15(火) 卒業式 卒業生98名 保育士資格取得者93名 幼稚園教諭2種免許取得者94名
社会福祉主事任用資格取得者98名 卒業生のうち資格・免許を生かした専門就職者は84名
2011. 3.22(火) 保育科ワークショップ「①保育実習評価表について②支援を必要とする学生について」
2011. 3.23(水) 学生等に関する連絡会 関係教員(非常勤含む)、学生課、キャリア開発課22名
2011. 3.29(火) AO入試合格者個人課題発表会 発表者36名
2011. 4. 1(金) 入学式 新入生(55期)106名 1年次新カリキュラム実施 保育科長再任 川西康裕教授
2011. 4.16(土) 全国保育士養成協議会九州ブロック協議会総会 山城眞紀子理事、学科長出席
2011. 5.28(土) 保育士就職模擬試験 2年次12名1年次9名 2012.1.14(土)1年次37名受験
2011. 5.30(月)～ 6.16(木)..... 保育実習Ⅰ(80時間)(80園、2年次108名)
2011. 6.13(月)～ 7. 9(土)..... 保育実習Ⅱ(80時間)(80園、2年次109名)5.30(月)～6.13(月)1園、1名済
2011. 7. 2(土)～2012. 1.28(土) ... 1年次保育ボランティア体験(夏期3日+2日間)104名89か所(保育所70園、学童クラブ6か所、児童館5か所 地域子育て支援センター1か所 幼稚園6園 小学校(特別支援学級)1校)186回のべ524日(2012.2.4(土)と2.28(火)にものべ3日実施予定)
2011. 7. 4(月) 前期採用奨学金授与式 新設の「保育科優秀奨学生」奨学金を石川陽子に授与
2011. 8. 1(月)～ 3(水) 水泳実習 1年次92名 2年次1名 台風のため1日短縮
2011. 8.24(水)～26(金) 教員免許状更新講習兼保育科公開講座 8.24(水)川西康裕教授「保育者のための児童家庭福祉エッセンス」参加者17名 8.25(木)大山伸子教授「リトミック講習」17名
8.26(金)吉村壮明准教授「演習『造形・美術教育再考』」21名
2011. 8.29(月)～ 8.30(火)..... 全国保育士養成協議会九州ブロックセミナー鹿児島大会 理事ほか1名出席
2011. 9. 1(木) 保育科ワークショップ「保育・教職実践演習(幼稚園)のすすめかたについて①」 9.29(木)「同②」 11.10(木)「同③」 保育・教職実践演習(幼稚園)は2011年度からの2年次新規科目
2011. 9. 4(日) 沖縄保育問題研究会主催、沖縄子ども研究会・本学協賛、第16回沖縄保育団体合同研究集会「生き生きと育て子どもたち～みんなが育つ子育ての関係づくり～」開催 約250名参加
2011. 9. 5(月)～ 9.30(金)..... 幼稚園教育実習(120時間)(83園、2年次108名)10.3(月)～24(月)1園1名
2011. 9.27(火) 学生等に関する連絡会 関係教員(非常勤含む)、学生課、教務課、キャリア開発課27名
- 2011.10.22(土) 第1回ワイワイプラザinキリ短2011(1・2年次C・D合同クラス)「めんそ～れ!ハローウィンパーティーinキリ短」約130名 2012.1.21(土)第2回(1・2年次A・B合同クラス)「2012お正月大作戦～HAPPY ワイワイ NOW～」472名参加 新規科目「地域子育て支援実習」として実施
- 2011.10.25(火)11.17(木)11.18(金) ... 2年次保育・教職実践演習フィールドワーク 西原町公立4園私立1園、那覇市私立1園 2年次109名が分散して1回ずつ
- 2011.10.29(土)～10.30(日) 沖縄北部自然体験学習 1年次3名 2年次11名 台風のため延期して
- 2011.11. 5(土) 日本保育協会沖縄県支部合同説明会 2年次51名 12.11(日)沖縄県私立保育園連盟合同説明会 2年次37名参加
- 2011.11.25(金) 学生ユニオンにて2009～2011卒業生懇談会(ワンコインパーティー) 121名(2年次5名含む)参加
- 2011.12. 2(金) 幼稚園実習に関する懇談会 西原町公立4園、浦添市公立2園より7名、本学6名
- 2011.12. 9(金) 日本保育協会沖縄県支部との連絡会 同支部12名、本学10名
2012. 1.18(水) 沖縄県私立保育園連盟との連絡会 同連盟8名、本学11名
2012. 1 『2011年度 保育科2年次 実習レポート集 第36号』発行
- 2011年度退学者 2年次2名 退学見込者1年次1名 休学者1年次3名 2年次3名 復学者2年次3名 科目等履修生6名



総合教育系

総合教育系特別公開講座

契約の基礎知識 「不当な契約を締結しないための基礎知識」報告

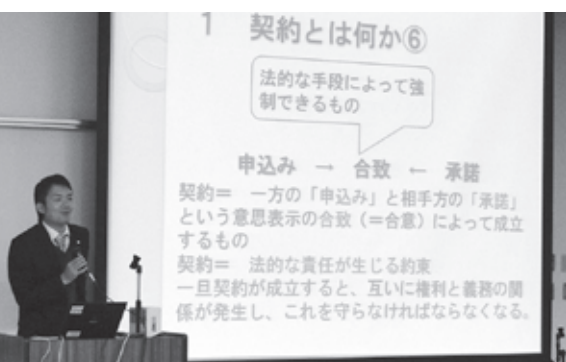
まずクイズから。クイズ1:コンビニでポーク卵おにぎり、さんぴん茶のペットボトルを購入しました。これは、「契約」ですか?クイズ2:某ショップで、CDアルバム2枚と、漫画20冊を1週間レンタルしました。これは「契約」ですか?クイズ3:A君は、Bさんと、明後日、遊びに行く約束をしました。これは「契約」ですか?クイズ4:同じゼミ所属のゼミ生から、HYのCDを1週間タダで借りました。これは「契約」ですか?

総合教育系は去る1月24日(火)午後7時から8時半まで、本学シャローム会館1-1教室にて若手気鋭の弁護士鈴間淳一氏(照屋俊幸法律事務所)をお迎えし、標記の公開講座を開催しました。肌寒い天候下での実施でしたが、47名の参加がありました。特に今回、参加者の殆どが学生であったことは嬉しいかぎりです。「法律」関連の講座は何となく難解なイメージを受けますが、鈴間氏は私達の身近にある「契約」の知識について、上記のクイズも交えて大変判り易くレクチャーして下さいました。

ところで、そのクイズの中で契約が成立するケースはどれでしょうか?実は「クイズ3」以外すべてが答えになります。その理由の詳細は省きますが、契約は、「申込み」と「承諾」という意思表示が合致した時点で成立し、また「口約束」でも成立します。鈴間氏は、このような①契約の成立要件をはじめ、②契約自由の原則、③契約の法的効果、④契約を結ぶ際の注意点、⑤内容証明郵便等、不法な契約締結から私達を防衛するための基礎知識を伝授して下さいました。講演の中で同氏が強調されたのは、「クーリング・オフ」、つまり、ある業者に対して一定期間、説明不要で無条件で申込みの撤回または契約を解除できるという法制度でした。その期間は、訪問販売、電話勧誘販売、特定継続的役務提供の場合は8日間、連鎖販売取引、業務提供誘引販売取引の場合は20日間(契約書を受け取った日が1日目)となります。またその解除方法は、期間内に必ず書面(ハガキでもOK)にクーリング・オフをする旨記載し、簡易書留(できれば内容証明郵便)等で事業者(代表者)宛に送付する、書面は必ずコピーをとり、契約書、領収書と一緒に保管する、クレジットで支払った場合には、クレジット会社にも同じ内容のものを発送する、となります。最後に同氏は、次の点をアドバイスして講演を締め括られました。つまり、契約書に簡単に署名押印しない、契約の内容で分からない事は、きちんと担当者に聞く(特に金銭の支払い方法、支払時期、違約金の定めについて)、うまい儲け話などない、異常に安いサービス、商品に要注意、何か困った事があったら知り合いの弁護士、司法書士に相談するか、弁護士会、「法テラス」の法律相談を利用する。

なお講演後、フロアから「靈感商法」への対応方法等に関する質問が出ました。今回の教養講座は、実践的知識を授けてくれる内容でした。特に学生達にとって「教養力」は、卒業後も貴重な知的財産になります。そのため通常の講義と共に、今回のような講座を通して幅広い教養を提供することの使命を確認するとともに、本短大に総合教育系が設置されていることの意義を再認識させられました。最後に、昨年度同様、本講座を人的、物的に支援して下さいました「公開講座委員会」はじめ教職員の皆様に謝意を表します。

総合教育系主任 青野 和彦



沖繩キリスト教学院大学 大学機関別認証評価

沖繩キリスト教学院大学は、2010年度認証評価の結果、財団法人日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしていると認定されました。

沖繩キリスト教学院大学の「2010年度自己評価報告書」及び「評価報告書」は、本学院ホームページ(<http://www.ocjc.ac.jp>)に掲載されています。



研究助成費獲得による研究活動

沖繩キリスト教学院大学・沖繩キリスト教短期大学では、沖繩キリスト教学院特別研究助成費や外部資金による研究活動が行われています。2011年度の獲得結果は次のとおりです。

【沖繩キリスト教学院特別研究助成費】

- 中国語の虚詞“過”に関する統語論的研究 (武村 朝吉)
- 沖縄県内の幼稚園における生活技能の実態調査 (照屋 建太)
- 『太平洋文学』の研究ネットワーク構築と研究成果の情報発信 (本浜 秀彦)
- 沖縄の米軍占領下における初等学校・小学校英語教育の実態調査 (村田 典枝)

【科学研究費補助金】

- 近代沖縄教育への思想史的アプローチのための基礎的研究 (照屋 信治)
- 役割語の総合的研究 (本浜 秀彦)

【公益信託 宇流麻学術研究助成基金】

- 強磁場・高圧力中の熱電能測定と希土類金属間化合物の電子状態の研究 (内間 清晴)

【ひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～】

- 医歯薬学系、保健・福祉系に重要な精神障害者理解・雇用の視点 (近藤 功行)

ひらめき☆ときめきサイエンスは、科学研究費補助金による研究成果を社会還元・普及するための事業です。今年度は2005～2006年度に科学研究費補助金を得て研究を行った沖繩キリスト教学院大学の近藤功行教授が、'08年度、'10年度に引き続き県内の高校生を対象としてプログラムを実施しました。



ひらめき☆ときめきサイエンス プログラム風景

『オープンキャンパス』

本学のオープンキャンパスの特徴は、プログラムの最初に「祈りつつ学び、学びつつ祈る」大学・短大の要であるチャペルで、全体集会を行うことです。今年度、英語科・英語コミュニケーション学科の学科紹介では、留学帰りの学生達が英語のスピーチを加えつつ、具体的な留学への取組みを紹介し、保育科の学生は手遊びを交えながら、2年間の流れを分かり易く紹介してくれました。また、入試相談ブースで、入試準備から大学卒業後の進路等、先生方と直接話しができることも好評です。

その他にも充実したプログラムで毎回大盛況のオープンキャンパス。益々パワーアップして受験生の皆様に応えていきたいと思ひます。





行事

Event.1

入学式

●2011年4月1日(金)

秋季入学式

●2011年10月3日(月)

沖縄キリスト教短期大学(第55回)、沖縄キリスト教学院大学(第8回)、沖縄キリスト教学院大学大学院(第4回)入学式が本学体育館で執り行われました。英語科110名、保育科106名、学院大学90名、大学院3名が期待に胸を膨らませ入学しました。

また、10月3日には、秋季入学式が本学チャペルで執り行われ、新入生3名(英コミ2名、英語科1名)、転入学1名(英語科)が入学しました。新入生の皆様ご入学おめでとうございます。



Event.2

スポーツデー

●2011年4月16日(土)

学生会・キャンプリーダー主催で新入生歓迎のスポーツ大会が行われました。参加者はバレーボールやドッジボール、3色綱引き等様々なスポーツで汗を流しました。クラス対抗のトーナメント方式で行われ、それぞれ揃いのユニフォームを着用し、真剣勝負の試合はどれも大盛り上がりとなりました。また終了後はバーベキューやレクリエーションを行い、新入生同士の仲が深まった一日となりました。



Event.3

新入生 オリエンテーションキャンプ

●2011年5月18日(水)~5月20日(金)

●国立沖縄青少年交流の家(渡嘉敷村)

今年で44回目を迎える名物行事の新入生オリエンテーションキャンプが実施されました。渡嘉敷島での2泊3日の研修ということもあり、不安を抱いていた新入生も、帰る頃には「参加してよかった」「とても楽しかった」等の声を多数聞くことができました。

本キャンプでは金城重明先生の講演、集団自決跡地碑を見学する平和学習や「大学で学ぶ意義」を考えたり、海洋研修等を通して交流を深めるプログラムが実施されました。

また、今年は3月11日の東日本大震災を受け、最終日に被災地の状況をスライドでみせる「東日本大震災を覚えて」というプログラムも取り入れました。

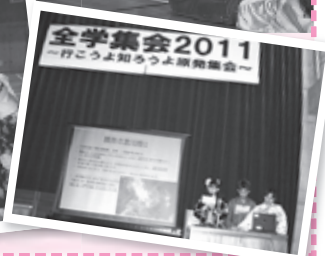


Event.4

全学集会&七夕祭

●2011年7月8日(金)

全学集会テーマを「行こうよ知ろうよ原発集会」とし、今年3月11日の東日本大震災によって生じた原発問題について学生会が調べ、発表しました。難しいテーマではありましたが、ニュースなどでしか耳にしていなかったワードも同年代の学生が発表することで、より身近に感じる事が出来たと思います。夕方からは「七夕祭」が始まり、学生による歌やダンスが披露され、多くの学生が浴衣姿で参加し、大盛況で幕を閉じました。



Event.5

第47回 キリ学祭 *テーマ* [Let's make peace]

●2011年11月12日(土)~13日(日)

今年の学園祭は両日とも好天に恵まれ、全てのプログラムを予定通り行うことが出来ました。開会宣言と共に放たれたバルーン。本学学生による歌やダンス、ゲストアーティストによるライブの数々でステージは大盛り上がりとなりました。特に本学学生で結成された「OCU48」は完成度も高く、とても好評でした。2日目には県内出身アーティストD-51のライブもあり、埋め尽くされた会場は最高のボルテージに達していました。フィナーレでは学園祭実行委員と来場者による「上を向いて歩こう」の大合唱で感動の内に幕を閉じることができました。開催中に来場者の方々から頂いた献金、また各出店ブースからも頂いた献金を合わせると総額55,421円になりました。この献金は被災地の子供たちを沖縄へ招き入れる団体「てぃーだキッズ」へ贈らせていただきました。来場された皆様、ご協力いただきましたスポンサー、地域の皆様、関係者の皆様、本当にありがとうございました。



「東日本大震災を受けて」

昨年3月11日に発生しました東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）による被災者の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。又、被災地が一日も早い復興を遂げられますように心よりご祈念いたします。

今回、東日本大震災を受けまして本学院からも引率教職員、学生を現地へ派遣しボランティアワークに参加しております。6月7日～12日に第一陣（学生6名、引率教員1名）、そして9月10日～17日に第二陣（学生6名、引率職員1名）が、宮城県にてボランティアワークに参加いたしました。その中から2名の学生の声を届けます。

「大切な事を教えてくれたボランティア」

宮城県の若林区七郷地域でのボランティア活動は、私にとってとても衝撃的な事ばかりでした。

住宅の泥だしや畑の片づけ、家具の洗浄等の作業を通して、各ご家庭の被災前の生活を想像し、現状と比べるととても胸が痛かったです。

私は支援活動中、生存したことに対して罪悪感を持っている被災者が大勢いるというお話を伺ったり、「震災の事を思い出すから、家に戻りたくない。」と言った奥さんに対し、「他に住む所なんてないよ。」と返す旦那さんの会話を耳にして、震災が被災者の心にとっても大きな傷を残したという事を知りました。震災から一年が過ぎましたが、被災地の復興だけではなく、被災者の心が回復する日が早く訪れることを祈っています。

ボランティア活動で、私は日々の大切さを改めて感じました。これからも今まで以上に、日々を大切に過ごしていきたいと思います。

英語コミュニケーション学科2年次
仲座 梨奈



左が仲座梨奈さん

「前向きなボランティアへ」

仙台市・石巻市でのボランティア活動は、いい意味で私の「ボランティア観の一部」を変えてくれました。それは言うまでもなく、私の学生時代を通しての貴重な時間となりました。

活動1日目、私は被災地の状況にショックを受け、気持ちがふさぎ込んでいました。しかし、ある学生ボランティアからの一言、「相手を笑顔にさせるためには、自分が楽しんでいる気持ちを持っていないとできないよ」が大事なことを気づかせてくれました。

「人間は何か明るい出来事から勇気をもらい、前進できる。」その後は、思いやりの気遣いと、楽しい時間を共有することを大事にして活動できました。

被災者の「本当にありがとう」の言葉を大事にし、卒業後の就職先であります NPO 法人 W・I・N・G で行っている岩手在住の障害者支援事業にも全力で取り組みたいと思います。

英語コミュニケーション学科4年次
栗国 宏文



右端が栗国宏文さん

本学での取り組み

被災者への支援と一日も早い復興を祈り、沖縄キリスト教学院は以下の事項を実施いたしております。

①義援金の募金活動

東日本大震災の被災された方々を支援するため、義援金を募集しております。

本学教職員、学生、卒業生、その他の有志の皆さん方には趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

【募金受付窓口】総務課（宮城）TEL 098-946-1231

【送付先】日本キリスト教団東北教区センターエマオ

②ボランティア募集と活動協力

本学学生・教職員の被災地でのボランティア活動をサポートしております。

③ボランティア活動の報告会

本学学生・教職員の被災地で行ったボランティア活動についての報告会を随時もち、学内外の人々との情報と意識の共有を行っております。

④公開講座・講演会等の開催

東日本大震災と関連する自然災害、原子力の

被爆、復興、ボランティア関連の公開講座、また、講演会の企画実施をいたしております。

⑤沖縄県へ避難して来られた被災者の方々への支援

本学院図書館の書籍貸し出しとコンピュータの利用をすることが出来ます。ご利用下さい。

【問合せ】図書館 TEL：098-946-1236

E-mail：toshokan@ocjc.ac.jp

⑥震災復興チャリティーイベントの支援

本学の施設が利用可能な時間、学内外の有志による震災復興チャリティーイベントを目的とした本学施設の無料貸し出しをいたしております。

※本学の救援支援の目的及び教育目的に著しく反する団体のご利用に関しましては、その都度ご利用の可否を判断させていただく場合がございます。

【問合せ】総務課（東江）TEL：098-946-1231

卒業生の活躍

あなたが
得たものは、
世界が待って
いるもの。



保育科 52期 瀬 知行

2011年3月11日以降、私は一旦保育士を辞め、地元山口県から3度東北に支援活動へ行き、東日本大震災の規模の大きさと、そこで支援に関わる人材の少なさを知った。その中で私は「孤独な人の話し相手になりたい」という思いを持ち、同年10月20日に岩手県へ引っ越し、現在同県釜石市と大船渡市において仮設住宅での傾聴ボランティア、足湯サービス、物資の配達などを行っている。

私が沖縄キリスト教短期大学で学んだことが、実際に被災地でどのように活かされているのか3つのポイントで書きたいと思う。

1つ目は、私が在学中に学生会長として学祭の運営やスポーツデイなどを計画、開催してきた事である。その経験が今回、両市内5カ所の仮設住宅の集会所でクリスマス会を開いた際に、施設の予約やイベントの進行などに活かすことができた。ちなみに学祭は「つながり合うことの大切さ」を一緒に考える事をテーマとしていたが、これは今の東北復興のテーマの1つでもある。今後つながりから生まれてくる希望に私は期待しつつ活

動していきたい。

2つ目は、保育科で学んだ全ての授業である。私は仕事を退職したが、今でも保育士として被災地で活動している。保育士は決して保育園などの建物の中だけの職業ではなく、子ども達やそのご家族の将来に希望を持ち、共に歩む生き方だと信じているからだ。実際、仮設住宅でも赤ちゃんから高校生までの子ども達と出会う。彼らと関わる時の言葉かけなどは、保育科の授業で学んだからこそ出来ることだと考えている。

そして最後は、英語を学んだことである。在学中に参加した海外幼児研修で身につけた英語が今、役に立っている。私たちの団体はクリスチ안의国際的なネットワークで、香港人、アメリカ人、インド人と一緒に働くこともあるため、必然的に英語を使う機会が多い。アメリカでの研修で、少し間違っているけど積極的に英語で人々に話しかけた経験は、決して無駄ではなかったと感じている。

愛も知識も経験も、ただ持っているだけじゃもったいない。それを積極的にこの日本、そして世界のために使っていく志が大事だと私は考える。さあ、これから。

プロフィール

1989年 山口県生まれ
1990年 初めて一人で歩く（人生のハイライト）
2010年 沖縄キリスト教短期大学保育科卒業
2010年 山口県の保育園で一年間働く
2011年～ 岩手県遠野市に引っ越し、長期的な支援活動を始める（期間は最低でも10年間の予定）



宗教部・沖縄キリスト教平和研究所

Event1

サマー聖書キャンプ

『伊江島!ヌチドゥタカラの旅』

2011年度のサマー聖書キャンプは、本島中北部、伊江島を中心に2泊3日の日程で行ないました。学長、宗教部長、事務職員2名と四大生5名、短大生2名の合計11名が参加しました。伊江島タッチューに登り、千人洞(ニャーティヤガマ)や自然の散策、神様の創られた自然の恵みを知ると同時に、伊江島の土地闘争における非暴力の父と言われる阿波根昌鴻さんの設立した「わびあいの里」,反戦平和資料館「ヌチドゥタカラの家」での平和学習を行ないました。最終日には、名護市辺野古の米軍新基地建設反対のテント村に行き座り込みをしている方々からお話を聴くことができました。



Event2

アジア・フレンドシップキャンプ

『沖縄と共通する歴史と文化を学ぶ』

2011年度のアジア・フレンドシップキャンプは、韓国の済州島とソウル近郊にて行ない、宗教部長と宗教部職員、学生8名(四大生7名、短大生1名)が参加しました。今年は特に、韓国の海軍新基地建設が強行されようとしている済州島の江汀(カンジョン)村にて反対運動を続けている住民の方たちとの出会いや、済州島のすばらしい自然、沖縄に共通する歴史と文化を知ることが出来ました。また、日本軍「慰安婦」だった女性たちが共同生活を送るナムムの家での交流や資料館での学びを通して、軍隊とは何か、平和とは何か、私たちに与えられている尊い命の価値を考えるフレンドシップキャンプの時となりました。



Event3

クリスマス礼拝・祝会

『あなたがたのための救い主』

2011年12月22日(木)最終講義の後、午後6時から仲里朝章記念チャペルにてクリスマス礼拝を行ないました。今年は25名の学院聖歌隊や『キリスト教芸術』クラスによる特別讃美、英語、中国語、韓国語、フランス語の聖書朗読といったプログラムと「あなたがたのための救い主」というタイトルで金永秀宗教部長よりクリスマスのメッセージを聴きました。特に、今年の3月11日に発生した東日本大震災の悲しみと痛みがある状況の中で、私たちが継続して被災者の方たちに寄り添い共に歩んでいくことの大切さを学ぶことができました。また、礼拝後は体育館でクリスマス祝会が行なわれ、学生・教職員、来賓の皆さんと共に楽しい時間を過ごすことができました。



Event4

9条アジア宗教者会議

『9条アジア宗教者会議盛会裡に開かれる』

憲法9条の重要性をそれが否定されている沖縄でアジアの宗教者が知恵を出し合い、その実現を話し合い、祈るための会議が本学院のキャンパスで開かれた。日本国は平和憲法を制定しはしたものの、最近では改憲論が叫ばれ、特に第9条を無視し実際に戦争に加担している。沖縄の米軍基地やアメリカとの共同軍事演習が隣国に大きな脅威になっている現実を棚に上げ、隣国からの脅威を煽っている。そのような状況でやはり9条の理念は平和の礎だと信じ、「全ての軍事基地撤廃のために行動する」ことが宣言された。これからの展開を支えていきたい。(ウフグスク)



国際平和文化交流センター

地球市民月間

様々な国や地域の現状と課題を学ぶため、毎年開催している「地球市民月間」は今年で5回目となりました。今年度は5月23日～6月20日の期間に、東日本大震災に関連した報告会と上映会、パネル展を行ないました。



被災地支援ボランティア報告会 「みちのくは遠くない」

Talk☆Night

日程： 5月30日
共催： 本学院「東日本大震災支援実施本部」
講師： 玉城 歩(本短大保育科53期生、2010年度学生会長)
音野 太志(被災者支援団体「ハチドリ」代表、ライフセーバー)

内容：

国際NGOセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの「こどもひろば」ボランティアとして、岩手県釜石市、陸前高田市の子どもたちと過ごした玉城さんの体験報告と、音野さんが福島県相馬市で行なっている支援、救援、捜索活動の報告をしてもらいました。

来場した中学生からは「現地では学校は再開していますか」「学校で必要とされている物品はありますか」という質問があり、同世代の被災者への気遣いと、具体的な支援活動に取り組みたいという強い想いが感じられました。



「いのちをつなぐアースハーモニー2011」 関連資料パネル展

6月11日～20日の期間、映画『ミツバチの羽音と地球の回転』と、「チームSOS」の活動に関連した写真や資料を、SHALOM会館 前田伊都子記念ラウンジに展示しました。

「いのちをつなぐアースハーモニー2011」

日程： 6月11日、12日
共催： いのちをつなぐアースハーモニー2011実行委員会
(事務局担当NGO ONE LOVE)

内容：

学外団体(NGO ONE LOVE他)と共に、6月11日に映画の上映を、翌12日にはトークセッションを行ないました。1日目は、原発建設が計画されている山口県祝島と、脱原発の“先進国”であるスウェーデン取材した、原子力発電や代替エネルギーを取り巻く課題をテーマとするドキュメンタリーフィルム『ミツバチの羽音と地球の回転』(鎌仲ひとみ監督、2010年)を上映しました。

2日目のトークセッション「暮らしから原発を考える」では、水難救助などのボランティア活動を行うライフセーバー有志が構成する「チームSOS」のメンバーを招いた活動報告と、震災に対する参加者の想いを共有するワークショップを行ないました。

2日間を通して約300名の来場者があり、震災によって引き起こされた私たちの暮らしへの影響と、放射性物質による汚染について共に考える機会となりました。



ESD 研修会・ ワークショップ

日程： 12月13日
講師： 柳 敏晴(名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)
張本 文昭(本短大 総合教育系 准教授)

内容：

ユネスコスクールの普及とESDへの取り組み推進のため、ASPUivNet加盟大学として初めて開催した地域事業、ESD研修会・ワークショップでは、講義「地域・学校における安全教育、防災・減災教育」とワーク「災害時に使える野外生活技術」を行ないました。教育関係者を中心に、20名の参加がありました。

講義では、参加者自身が呼吸を止めてみたり、左右の手でそれぞれ別の動作をしてみたりと、身体感覚を意識しながら受講することで、「生きる力」を知覚的に学ぶことができました。ワークでは、身近な素材を使用して実際に水をろ過する方法や、食べられる野草の見分け方、空き缶を利用した炊飯等、調理を実践しました。参加者からは「野外体験学習は安全教育に役立つことを実感した」「災害時に備えた実践的な知識・技術を子どもたちに伝え、減災に取り組んでいきたい」などの感想が寄せられました。

※ユネスコ憲章に示された理念(教育・文化活動等を通じて世界の平和や安全に貢献すること)を学校現場で実践することを目的として設立された「ユネスコスクール・プロジェクト・ネットワーク」を支援するため、本学院は2011年1月に「ユネスコスクール支援大学間ネットワーク」へ加盟しました。

ユネスコが推進するESD(Education for Sustainable Development)とは、「持続可能な社会の担い手を育てるための教育」であり、世界の出来事を身近な暮らしと結びつけて考え、自ら判断し、行動する力を身に付けることを目指しています。



国際交流プログラム ・海外研修

学生の視野を広げ、学習意欲の向上を図ると共に、語学やコミュニケーション等の本学での学びを実践することを目的として、下記内容で海外研修等を実施しました。

研修名	主な研修先	研修期間	参加学生数
長栄大学交流プログラム	沖縄本島内(本学)	7月10日～7月23日	10名(受入)
台湾研修	台湾台南市 (本学協定校長栄大学)	8月27日～9月9日	12名(派遣)
ハワイ研修	米国ハワイ州カウアイ島 (本学協定校カウアイ・コミュニティ・カレッジ)※	2月12日～2月27日	15名(派遣)
海外幼児教育研修			9名(派遣)

※「ハワイ研修」と「海外幼児教育研修」は合同で行ない、それぞれ「観光学」と「保育実習」に特化したプログラムを実施しました。



長栄大学受入



台湾研修



ハワイ研修



海外幼児教育研修



就職関連

Employment

秋の進路セミナー

2011.10.25

学生と教職員が一体となり、全学的に進路について考えるプログラム。F M沖縄アナウンサーの大城 勝太 氏による基調講演や各学科のO B・O Gを交えたパネルディスカッションなどを行いました。205名(四大53名、短大152名)の1年次が参加しました。

【参加学生の感想】

今は課題に苦戦しているけど、とことんやってやろうという気持ちになった。



就職内定者との交流会

2011.12.14

四大3名、短大2名の内定者とこれから就活を始める後輩たちとの交流会を開催しました。先輩たちからは筆記試験対策やキャリア開発課の活用方法など就活の具体的なアドバイスがあり、参加者は真剣な眼差しで聴いていました。

【参加学生の感想】

先輩方も失敗を乗り越えて内定を獲得したときいて勇気が湧いた。



接客サービス基本講座

2011.8.24～8/26

相手の心をつかむ接客スキルを身につけることを目的として、3日間の日程で開催し延べ16名の学生が参加しました。もしもホットラインの研修担当者を講師にお招きし、ケーススタディーやボイストレーニング、パソコンでの報告書作成などを実践的に学びました。

【参加学生の感想】

教えていただいた敬語を使い「おっ!今回の新人は違うな!」と思ってもらえるようがんばりたい。



図書館

Library

コレクション紹介



ダリ画「ウルガタ聖書」全5巻

ダリ画「ウルガタ聖書」全5巻(特別限定版 199部の109番)を所蔵。

※平成23年度私立大学等研究設備整備費等補助金(私立大学等研究設備等整備費)交付決定。本学図書館2階に展示しています。



「ウルガタ聖書」

ダリの友人で後援者でもあったアルバレット(Giusepp Albaretto)は熱心なカトリック教徒で、1963年にダリに聖書の挿絵を描くように依頼しました。ダリはそれに応え、105枚の水彩画を1963-64年にかけて描きました。それをアルバレットが編集し、ダリの水彩画をリトグラフにして豪華な革製本の5巻本聖書として出版されました。(1967年～1969年に刊行)

図書館主催特別講演会

図書館主催(沖縄キリスト教平和研究所・沖縄キリスト教学院東日本大震災支援実施本部共催)による特別講演会「内部被曝の問題について」が開催され、学内外より56名の参加がありました。

講師/矢ヶ崎 克馬 氏(琉球大学名誉教授・沖縄キリスト教短期大学客員教授)

演題/「内部被曝の問題について」

日時/2011年5月14日(土)

14:00～16:00

場所/本学SHALOM会館1-1教室

※講演会に際し、被曝問題関連資料及び写真パネルを図書館ロビーに展示しました。

図書館ロビー展示内容:「広島・長崎被爆写真パネル」

本学図書館所蔵の「被曝問題関連図書」

展示期間:2011年5月12日(木)～31日(火)



在学生の活躍

「努力の成果」

全日本高校・大学書道展最高賞受賞
英語コミュニケーション学科 2年次 上原 千亜希

私は16年間書道を続けており、今回の最高賞はこれまでの書道人生で一番大きなものとなりました。今までの積み重ねが認められたということと、最高賞を取るという目標が成し遂げられたことにとても達成感を感じることが出来ました。今まで書道を投げたしたくなることは何度もあり、常に自分との戦いでした。けれど、いつも私のことをサポートしてくれる先生や両親のおかげでここまで来ることができ、大変感謝しています。今これで満足するのではなく、また次の目標に向かって、日々の稽古に励んでいきたいと思います。継続は力なり！！



「感謝」

太鼓フェスティバル in なは
創作エイサーコンテスト2011 準グランプリ「鏡水・鏡鼓会」
保育科 2年次 石川 紫乃

私は「鏡水・鏡鼓会」というエイサー団体に所属しています。地域行事や海外遠征など様々なことに取り組む団体です。その仲間と「太鼓フェスティバル in なは 創作エイサーコンテスト」というイベントに参加し、見事準グランプリを受賞することができました。毎年参加しては悔し涙ばかり流したこのイベントで初めて嬉し涙を流すことができました。受賞できたのはメンバーとそれを支えてくれた保護者の方など応援してくれる方がいてくれたおかげです。本当に感謝しています。これからも感謝を忘れず頑張ります。

留学生紹介

現在、本学院には6名の外国人留学生が在籍しております。国籍は中国・インドネシアと2ヶ国からの外国人留学生が日本人学生と共に正規の講義を受講しながら異文化交流活動等にも積極的に参加しています。今回はその中からインドネシア人留学生の声を届けます。

「留学生活」

英語コミュニケーション学科 3年次
イ ケトウト ヤセル セセノ

私は、2005年にインドネシアから来ました。日本語学校と専門学校、そして沖縄キリスト教短期大学の英語科で勉強した後、現在の沖縄キリスト教学院大学に編入しました。日本語は難しいですが、今までに、たくさんの日本人の友達ができたことが1番うれしいです。沖縄とインドネシアは気候と人々の性格がよく似ています。大学生活では、先生方の時には厳しく、時には優しい丁寧で熱心な指導と日本人学生の親切なサポートが私の励みになっています。日本で生活をする中で、言葉と文化の違いで苦労したこともたくさんありますが、これからも卒業まで一生懸命頑張ります。





新任教職員メッセージ



沖縄の大学で働くこと

英語コミュニケーション学科 准教授
照屋 信治

沖縄は戦前の日本で高等教育機関の存在しない唯一の府県といわれています。教育史研究の知見に照らせば、1943年の師範教育令改正により沖縄県師範学校が官立専門学校となり高等教育機関と位置づけられたので、正確な認識とはいえません。

しかしそのような記憶を沖縄の人々が共有している意義は小さくはありません。

現在、沖縄の地にある大学の社会的な役割の大きさを感じざるをえません。沖縄の地でPeace Makerを育成しようとする本学で働けることを私の誇りとしています。

日本教育史学会

「第24回 石川謙賞」受賞

この度、教育史の優れた研究に贈られる日本教育史学会の「第24回石川謙賞」を照屋信治准教授が受賞いたしました。照屋准教授の戦前の県教育機関誌「琉球教育」「沖縄教育」を史料として、近代沖縄における教育と「沖縄人」意識を分析した一連の研究が評価されました。



実践的で 学生主体の授業展開を

英語科 特任教授 幸喜 徳子

本学において17年間非常勤講師を務めさせて頂き2011年4月、特任教授を拝命致しました。関係各位に深く感謝申し上げます。ビジネス関係の講義を担当しております。JAL国際線乗務員、沖縄石油ガス(株)経営者、沖縄県公安委員会委員長等の経験を活かし、今後も実践的で学生主体の講義を展開して参ります。本学の学生の真面目な姿勢に、私自身も襟を正す思いです。プロ意識の高い職業人の輩出を目標に、学生と共に楽しい学びの場を創りたいと思います。皆様のご支援を賜りつつ、この大任を果たす所存です。宜しくお願い申し上げます。



夢を生きる

学習支援センター 准教授 武村 朝吉

人間本来の速度を遥かに上回るIT化・情報化は現代社会を慌たしいものへと激変させつつある。あるいは日々膨大な情報処理に忙殺され、あるいはその中に埋もれ、気がつけば夢を抱くことすらままならない状態に陥る。将来の希望である若者達が夢を生きられるよう、性急さに流されず、人間本来の速度の中で育まれるものを大事にし、学生たちと、ともに学び、ともに成長し、ともに生きる、そのような実践に徹したいと思う。



よろしくお願いします

学習支援センター 講師 糸洲 理子

2011年4月より学習支援センター講師として赴任いたしました。

今年度からスタートした学習支援センターでは、小論文を中心に学習支援と相談業務に携わっています。また、後期は保育科1年次の「保育指導法ゼミ」を担当し、専門の保育について、学生と共に学んでいます。

母校で働く恵みに感謝しつつ、学生の皆さんが学ぶことの楽しみを深める支援ができたと思います。よろしくお願いいたします。



終の棲家に!?

図書課 課長 多根 宏治

2011年5月1日付けで図書課に採用になりました、多根宏治(たねこうじ)です。

前職はナショナルチェーンの書店で「大学営業」を主としていました。いわゆる転職でこちらで働く機会をいただきました。前職では入社以来、北九州市→福岡市→さいたま市→目黒区→世田谷区→那覇市と住まいを転々としてきましたが本学で働く事＝沖縄永住の予定!?です。学生のみなさんが「本」への興味を高める図書館造りをしたいと思っていますので、忌憚のないご意見をお待ちしております。



感謝の意で心新たに

学生課 主任 新垣 桂子

約20年看護師として病院に勤務していましたが、1997年に縁あって本学にお世話になり、多くの皆さんに支えられて2011年4月付で専任として採用となりました。病院勤務の際には治療の補助や看護中心でしたが、病気の予防や啓蒙の大切さを痛感し、今では皆さんとともに健康管理を学んでいます。初心に返って頑張りますのでよろしくお願いします。



一步一步

企画推進課 書記 米須 瑠美子

企画推進課の米須瑠美子と申します。2008年9月より本学にお世話になり、2011年4月付で専任職員として採用していただきました。これまでの約3年間は、「大学」という組織の業務を理解することに必死でしたが、これからは諸先輩方が築き上げてきた本学の良き伝統を守りつつ、新しい風を吹き込めるよう日々努力し、一步一步進んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

退職教員メッセージ



停年の辞

英語コミュニケーション学科教授
大城 亘武

キリ短ことキリスト教短期大学に、助手兼図書館事務として採用されたのは1977年4月のことである。所属先は一般教育である。この年、英語科に島袋忠夫先生、保育課に新垣美智子先生が採用されている。

30余年の在職期間中に特筆すべきことが2つある。

ひとつは、首里キャンパスから現キャンパスへの新築移転である。土地取得や資金造成など多くの困難を克服して、1989年の夏に建設工事は完了し、休暇中に移転作業がなされた。私は当時図書館長を拝命していたので、図書資料等を効率的に搬出・搬入・整理し、利用に供する責務があった。図書資料等の運搬は業者に任せればよい。問題は図書館資料の配架である。そこで、新図書館と旧館の書棚に対応コードを設定し、棚毎に箱詰梱包し、箱の行き先を指定した。こうして、資料の配架はスムーズに効率よく終えることが出来た。約10万冊を数えた。

あとのひとつは、4年制大学、すなわち沖縄キリスト教学院大学の設立である。課題が2つあった。新キャンパス用地の取得と設置学部学科の決定である。いずれも色々なプランが提案されては消えていった。土地については、最終的にはキリ短と共有することで落着した。

当初、短大の2学科の4年制化を目指し、2学部設置の構想があった。しかし、資金的に余力がなかった。やむなく1学部構想を推進するしかなかった。保育科関係者の不満を抱えながら、英語科の入学定員200人のうちの一部を4大に振り分ける形で計画が進められた。大学設立申請を目指して、幾多の会議が開かれ、特に財政的シミュレーションが試みられ、試案が策定された。文部省(当時)高等教育課との気の遠くなるような交渉が続いた。キャンパスが狭小なこと、運動場がないこと、設置準備金が足りないこと等々、問題は山積みであった。課題を一つ一つ解決しながら2003年に設置の認可があり、2004年4月に開学した。初代学長は神山繁實博士である。

本学院在任中に、キャンパスの移転と大学の設立に関わられた。得がたい2つの僥倖に恵まれた、と感慨無量である。いずれも大きな困難の中で達成されたものである。「求めよ、さらば与えられん。」本学院に奉職できた幸運を感謝しつつ、学院のますますの発展を祈るものである。





学習支援センター開設

学習支援センターは、在学生の皆さんの積極的な学習活動を支援する組織として、2011年4月1日に設置されました。現在、教員2名が配置され、学習支援のための各種講座の開設、並びに学業・進路に関する相談・悩みに対応しております。

各種講座では、学力向上を達成するための基盤となる規則正しい生活、学習成果を定着させるために求められる反復練習など簡単なことを重視しつつ、きめ細かい指導を行っております。

沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学次期学長選任

現学長神山繁實の2012年3月31日任期満了に伴い中原俊明氏を次期学長とすることが決定いたしました。

◆中原俊明氏略歴

琉球大学名誉教授、沖縄キリスト教学院評議員(2008年～)

◆学歴及び主な職歴

- ・中央大学法学部法律学科卒(1959年)
- ・サザン・メソヂスト大学ロースクール比較法学修士課程修了(比較法学修士 M.C.L)(1965年)
- ・琉球大学短期大学部教授、同大短期大学部部長、同大法学部教授、同大学長特別補佐等を経て、2001年3月同大定年退職
- ・志学館大学法学部教授(2001年4月～2006年3月まで)



(右から二人目が中原俊明 次期学長)

2011年度人事(2011年4月1日～2012年3月31日)

◆沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学学長

- ・神山繁實(任期:～2012年3月31日)

◆教育管理職

【任期:～2012年3月31日】

- ・人文学部長 高崎 正名(英語コミュニケーション学科教授)
- ・教学部長 大城 宜武(英語コミュニケーション学科教授)
- ・キャリア開発部長 近藤 功行(英語コミュニケーション学科教授)
- ・国際平和文化交流センター長 本浜 秀彦(英語コミュニケーション学科准教授)

- ・大学院異文化コミュニケーション学研究科長
Randolph H. Thrasher(英語コミュニケーション学科教授)

【任期:～2013年3月31日】

- ・英語コミュニケーション学科長 A. David Ulvog(英語コミュニケーション学科講師)
- ・英語科長 柳田 正豪(英語科講師)
- ・保育科長 川西 康裕(保育科教授)
- ・総合教育系主任 青野 和彦(総合教育系准教授)

◆特命担当

- ・理事長特命担当 北原 秋一(英語コミュニケーション学科特任教授)

◆学習支援センター

- ・センター長 武村 朝吉(准教授)(任期:～2013年3月31日)

◆子ども支援学部設置室

- ・室長 山城 眞紀子(保育科教授)
- ・事務長 金城 繁正(企画推進課長代行)

◆沖縄キリスト教学院大学

【採用(4月1日付け)】

- ・Christopher Valvona 講師(外国人契約⇒専任教育職員)

- ・照屋 信治 准教授
- ・山里 恵子 特任教授
- ・武村 朝吉 准教授(学習支援センター)
- ・糸洲 理子 講師(学習支援センター)

【名誉教授称号授与(4月1日付け)】

- ・仲地 弘善(教授・2011年3月退職)

【定年退職(3月31日付け)】

- ・大城 宜武 教授

◆沖縄キリスト教短期大学

【採用(4月1日付け)】

- ・幸喜 徳子 特任教授(英語科)
- ・大城 実 特任教授(沖縄キリスト教平和研究所)

◆事務職員

【採用(4月1日付け)】

- ・上間 里子 書記(任期事務職員⇒専任事務職員)
- ・新垣 桂子 主任
- ・米須 瑠美子 書記

【採用(5月1日付け)】

- ・多根 宏治 図書課長

【昇任(4月1日付け)】

- ・真栄田美奈 図書課主任(総務課書記)

【昇任(9月1日付け)】

- ・嘉陽田 直子 財務課長(財務課主任・課長代行)
- ・中田 竜次 学生課長(学生課主任・課長代行)

【異動(4月1日付け)】

- ・金城繁正 企画推進課長代行(企画推進課主任)
- ・城間 勉 学長付主任(キャリア開発部主任)

『同窓会・後援会活動』紹介

♪ キリ学同窓会祭 ～音楽と交流の夕べ～ ♪ (2011.10.29 シャローム会館)

今回のイベントは、1期から53期までの同窓生50数名が、和やかな雰囲気の中、ミニコンサートを楽しみ、会食やゲームにユンタク、会の閉めには参加者全員での大合唱と世代を越えての「音楽と交流の夕べ」は大いに盛り上がりました。このイベントを、中心になって企画運営してくれた評議員たち(51期生)の呼びかけで、若い会員層の参加も多く、賑やかな明るい会に先輩会員たちは大喜びでした。会員相互の親睦を図ることが会の目的の一つにありますが、幅広い年齢層の交流は同窓会ならではのことで、若い会員層の継続的かつ積極的な参加で、会の更なる活性化・充実化が期待されます。

また学院及び在学学生の支援を行なうことも会の目的です。卒業と同時に新規同窓会員となる学生の皆さん、是非、意見・声を聞かせて頂き、学院の発展のために知恵と力を出し合い、共に協力し進めていきましょう。若い皆さんの参画をお待ちいたしております。

【お願い】 同窓会ではデータによる会員名簿の整備を進めています。

①住所 ②氏名 ③電話番号 ④勤務先 の変更等をお知らせください。

●連絡先 同窓会事務局

電話/FAX 098-946-1280 E-mail dousoukai@ocjc.ac.jp



寄付感謝報告

※寄付へのご協力ありがとうございました。ここに感謝をもってご報告させていただきます。

寄付指定(2011年1月1日～12月31日まで)

個人(21件/¥7,763,000) 団体(35件/¥23,895,255) 合計(56件/¥31,658,255)

施設設備資金		
同窓/在学生	2	680,000
団 体	4	212,755
宗教団体	7	217,500
学校関係者	3	29,000
教職員	3	49,000
同窓会	1	650,000
後援会	1	5,315,000
合 計	21	7,153,255

キリスト教平和研究所		
宗 教	2	55,000
宗教団体	2	12,030,000
学校関係者	1	80,000
教職員	1	1,800,000
合 計	6	13,965,000

奨学金		
企 業	8	550,000
団 体	1	100,000
宗教団体	3	250,000
学校関係者	1	160,000
教職員	5	3,210,000
同窓会	1	550,000
後援会	1	3,010,000
合 計	20	7,830,000

学生会活動援助費		
同窓会	1	300,000
後援会	1	200,000
合 計	2	500,000

国際交流		
教職員	1	30,000
合 計	1	30,000

その他		
団 体	1	100,000
宗教団体	2	210,000
教職員	2	1,670,000
同窓会	1	200,000
合 計	6	2,180,000

沖縄キリスト教学院

2012年度 前期公開講座募集要項

講座名(講師名)	開設予定日/時間	対象(定員)
ハングル講座 金 永秀(本大学教授)	4/23(月)～7/2(月) 10回 19:00～20:30	ハングルを音読できる方 (12人以上)
朗読・群読・物語作りの講座 上原 明子(本短期大学教授) 名和 純(渚を歩く会)	4/24(火)～6/26(火) 10回 19:00～20:30	一般社会人、学生 (15人)
教会音楽合唱講座 神谷 智子(本短期大学非常勤講師)	4/27(金)～7/6(金) 10回 19:00～20:30	一般社会人、学生 (15人)
日常生活および職場で役立つ やさしいカウンセリング入門 渡久地 政順(日本カウンセリング学会、 日本教育カウンセラー協会、本短期大学名誉教授)	4/27(金)～7/6(金) 10回 19:00～20:30	一般社会人 (30人程度)
小学校・児童英語指導者養成講座(初級コース) —Communicative Childcare Englishの基礎— 児童英語発達段階に沿った指導の展開 山里 米子(NPO法人沖縄児童英語研究会理事長)	4/24(火)～6/26(火) 10回 19:00～20:30	一般社会人、大学生、保育士、 幼稚園教諭、小中学校教諭、児童英語講師 (12人以上)
脳を鍛えるラテンステップ 間 里佳 ラテンバンドカチンバ1551 本短期大学38期生	4/26(木)～7/5(木) 10回 19:30～21:00	一般社会人、学生 (100人)

- 申込方法：1)お電話でお申込みください。電話番号:098-946-1240(総務課)
2)FAXでお申込みの方は、HP掲載の申込書をご利用になり、氏名等を記入し、下記宛に送信してください。
FAX:098-946-1241
※E-mailでお申込の方は、HP掲載の申込書をダウンロード後、氏名等を記入し、右記宛に添付して送信して下さい。<E-mail koukaiko-za@ocjc.ac.jp>
●定員に達し次第締め切らせていただきます。
- 受付期間:3/12(月)～3/30(金)まで ※時間 09:00～17:00(土日除く)
- 受講費用:[10回]一般6,200円/割引3,200円
●本学関係者・在学・卒業生、西原町在住者・勤務者、学生の方は割引あり。
●一旦納入された受講料は払い戻しできません。
- 納入先:各講座開講当日に総務課窓口で納入してください。
(18:00～18:50)
- 開講条件:受講者の人数が少ないクラスは閉講することがあります。この場合受講料は、お返しいたします。
- 日程:諸事情により、講座日程が変更になる場合があります。講座が開始されましたら、担当講師にご確認下さい。
- 詳細:詳細は、本学のホームページをご覧ください。<<http://www.ocjc.ac.jp>>

2010年度決算報告

2010年4月1日から 2011年3月31日まで

資金収支計算書

(単位:円)

資金支出の部		資金収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費支出	659,321,948	学生納付金収入	815,144,000
教育研究経費支出	221,736,843	手数料収入	19,834,500
管理経費支出	51,941,069	寄付金収入	21,520,175
借入金等利息支出	4,307,123	補助金収入	187,790,249
借入金等返済支出	36,100,000	資産運用収入	10,453,091
施設関係支出	16,606,922	事業収入	4,621,096
設備関係支出	42,502,125	雑収入	75,388,542
資産運用支出	70,713,793	前受金収入	365,617,440
その他の支出	38,064,328	その他の収入	23,201,094
予備費			
資金支出調整勘定	△ 62,770,696	資金収入調整勘定	△ 464,500,937
次年度繰越支払資金	1,170,640,735	前年度繰越支払資金	1,190,094,940
支出の部合計	2,249,164,190	収入の部合計	2,249,164,190

消費収支計算書

(単位:円)

消費支出の部		消費収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費	766,790,376	学生納付金	815,144,000
教育研究経費	307,983,951	手数料	19,834,500
管理経費	60,620,183	寄付金	22,110,705
借入金等利息	4,307,123	補助金	187,790,249
資産処分差額	2,262,801	資産運用収入	10,453,091
		事業収入	4,621,096
予備費		雑収入	75,418,542
消費支出の部合計	1,141,964,434	消費収入合計	1,135,372,183
当年度消費支出超過額	106,936,919	基本金組入額	△ 100,344,668
前年度繰越消費支出超過額	210,495,252		
翌年度繰越消費支出超過額	317,432,171	消費収入の部合計	1,035,027,515

貸借対照表

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	3,342,293,634	固定負債	489,564,087
有形固定資産	2,994,289,236	流動負債	476,775,763
土地	943,772,604	負債の部合計	966,339,850
建物	1,298,638,332	第1号 基本金	3,800,797,149
その他の有形固定資産	751,878,300	第2号 基本金	40,000,000
その他の固定資産	348,004,398	第3号 基本金	30,000,000
流動資産	1,244,411,194	第4号 基本金	67,000,000
現金預金	1,170,640,735	基本金の部合計	3,937,797,149
その他の流動資産	73,770,459	翌年度繰越消費支出超過額	△ 317,432,171
資産の部合計	4,586,704,828	負債の部、基本金の部 及び消費収支差額の部合計	4,586,704,828

2010年度決算について報告いたします。
計算書類は、文部省令「学校法人会計基準」に基づいて作成されており、資金収支計算書は、当該会計年度の研究及びその他諸活動に使用したすべての資金収支の内容等を明らかにしたものです。
消費収支計算書は、当該会計年度の消費収支内容及び均衡の状態を示し、学校法人の経営状態を明らかにしたものです。
貸借対照表は、当該会計年度決算時点における財政状態を明らかにしたものです。

『学報 58 号』の正誤表を以下に示します。訂正してお詫び申し上げます。

	誤	正
7 ページ 研究助成費獲得による研究活動 【科学研究費補助金】	● 近代沖縄教育への思想史的アプローチのための基礎的研究（照屋 信治） ● 役割語の総合的研究（本浜 秀彦）	● <u>〔新規〕近代沖縄教育への思想史的アプローチのための基礎的研究（照屋 信治）</u> ● <u>〔新規（研究分担者）〕役割語の総合的研究（本浜 秀彦）</u> ● <u>〔継続〕文学・視覚メディアにおける「沖縄人」の〈顔〉の表象についての研究（本浜 秀彦）</u> ● <u>〔継続〕4 離島における死生観教育の展開と展望を探る医学教育的研究（近藤 功行）</u> ● <u>〔継続（研究分担者）〕1940 年体制下における教育団体の変容と再編過程に関する総合的研究（照屋 信治）</u>
17 ページ 退職教員メッセージ 4 行目	この年、英語科に島袋忠夫先生、保育課に新垣美智子先生が採用されている。	この年、英語科に島袋忠雄先生、保育 <u>科</u> に新垣美智 <u>孔</u> 先生が採用されている。